

東北生産性本部

第34回仙台シンポジウム、スタート



<開講挨拶、青木会長>



<元総務大臣、増田寛也氏>



<熱心に聞き入る参加者>

6月16日（木）14時より、仙台商工会議所7階大会議室に於いて、仙台シンポジウム6月拡大例会が開催された。6月拡大例会は、当本部の復興支援事業として位置付け、野村総合研究所顧問、元総務大臣、前岩手県知事の増田寛也氏を迎えて、『東日本大震災からの復興への道筋、日本経済再生と地域の自立を目指して』をテーマに参加者120名が熱心に聴講し、平成23年度のスタートに相応しいシンポジウムとなった。

今後の仙台シンポジウム

例会	テーマ	講師
7月28日	日本政治の行方、政権の果たす役割	政治アナリスト 伊藤惇夫 氏
8月24日	地球環境問題の本質	東北大学教授 石田秀輝 氏
9月29日	今後の日本経済の動向、財政・金融政策の行方	早稲田大学教授 川本裕子 氏
11月調整中	国際情勢と日本の役割	外交評論家 岡本行夫 氏
12月13日	デフレの正体と人口成熟時代	日本政策投資銀行参事役 藻谷浩介氏

7月の予定

- 7月 8日（金） 11時より、仙台商工会議所4階会議室
『宮城県経営品質協議会幹事会』
- 7月13日（水） 11時より、仙台商工会議所4階食堂、『会長副会長会議』
- 7月20日（水） 13時半より、福島駅東口「ユニックスビル」5階 第2会議室
『復興支援 労使セミナー・イン・福島』
- 7月28日（木） 15時45分より、仙台商工会議所4階会議室、『第151回理事会』

第一義 ～生産性本部の労使の役割～

生産性本部の最大の特徴は、労・使・学の組み合わせであると思う。特に、戦後の発展のため、生産性運動の先頭に立ち、労使が一体となって努力してきた成果は大きいものがあった。ともすると、労使は対立関係に陥り易い、人間尊重や適正な配分を背景にして、労使対等な関係で努力することを説いたのは生産性運動である。しかし、半世紀を過ぎると、民間企業においては常態化し、いつの間にか高邁な思想は忘れ去られてしまう。その一方、公務員は使命である国や社会のために尽くすことをすっかり忘れて、省益つまり個人の利益追求に走り、既得権だけが蔓延る。また、労組側から見ると頭が二つある労組生産性の存在も分かりにくい。生産性本部だけでは運動論が消えてしまうというが、この論理は公務員の姿にダブって見えるのは私だけだろうか。（記S・S）